令和５年度全国高校選抜(埼玉大会)審判員報告書

審判長　伊豆島知佳　副審判長　佐藤なつみ

〇採点上打ち合わせた事項

事前に全国講習の資料でルールの確認をしていただき、当日は対面で研修を実施。

各パート注意事項の確認と、映像を使い採点練習を行った。

【個人 DB　フープ・クラブ】

・DB 中の手具操作の繰り返しを見逃さないよう注意する。
・手具操作が正しく実施されているか。
・もぐりやジャンプターンのシリーズでの R の受けのタイミングを見極める。
・空中下で 2 回の回転に不足がないか。
・DB の波動でも W の定義である「頭から骨盤を通って足元まで連動しているか」を見極める。

【個人 DB　ボール・リボン】

個人競技の映像研修は、事前研修資料を中心に打ち合わせを実施した。打ち合わせでは、DB の美しさや評価の基準について見解の統一をすることができたが、初見で出した得点がどうであったかまで話し合うことができなかったことを個人的に反省している。１つの映像を丁寧に研鑽することも重要であるが、試合は１度の演技を瞬時に判断することになるため、初見の採点で出した得点の傾向と対策を話し合えれば、より見解の統一がはかれたのではないかと感じている。

試合中の採点では、コンバイン難度や R のシリーズなど得点源の高い難度について打ち合わせをすることがあった。これらの難度は、カウントするか否かで評価が大きく変わるため、どのような評価によって判断したかを話し合った上で得点を決定するように努めた。

【個人 DA　フープ・クラブ】

・ベースと基準がきちんと満たせているか。
・ベースに対し、基準の身体難度が正確に実施できているか。
・転がしが正確に実施できているか。基準で回転や身体難度を実施する際に、タイミングはどうか。
・ベースとなる操作（風車や小さな 2 本の投げ受け）が正確に実施できているか。
・基準の垂直軸回転が 360°を満たしているか。
・基礎技術要素の非対称な操作が演技中に正しく実施できているか。

【個人 DA　ボール・リボン】

・転がしが最後まで正しく転がっているか（2 部位）
・螺旋・だけいの数が足りているか
・ベースと基準の確認
・DB や W を伴う DA では、基準が有効になるかの見極め

・基礎手具要素の確認

【個人 A】
・キャラクターの減点
・ステップの減点
ケースごとに見解が分かれる部分ではあったが、中間点の着地は落ち着いていた。
ステップ中の DA で流れが中断するケースと、そうでないケースの両方を確認する事ができた。
また、選手の資質は良くてもキャラクターやステップが不十分なケース、資質は中堅層でもステップやキャラクターで作品を仕上げているケースを想定して、採点項目に沿ってジャッジをするように再確認をした。
・高い投げ／受けの減点について
手具と身体との関係性が異なるケースについて、具体例をあげて確認をした。
映像研修では当てはまるケースは無かったので、改めて疑問を持って事前に確認できた事は良かった。
例）リボンを体側で回しながらの受ける／リボンを体側で回しながら前方回転をして受ける　など

【個人 E】
事前の研修資料（全国講習資料）と前日の映像研修に基づき、マークアップの確認、ルールの確認を行った。具体的には映像研修を行い、採点し、落下、移動、DB、DA、徒手の減点箇所を確認した。身体の動きの技術減点は特に DB の減点（0.1 0.3 0.5）の見極め、重心の高さ、かかとの高さ、膝・つま先の美しさ等、選手の質の見極めについて確認した。手具の技術減点については移動の減点（0.1 0.3 0.5）の見極めに重点を置き、見解を統一した。注意点としてはプレアクロバットの形の不完全な動きまたは大きさに欠ける 0.1 の減点と R 中の不正確な身体部位の減点の仕方を確認した。

【団体 DB】
・身体難度の誤差、回転数の見極めを正確に実施する。
・交換の高さ・距離の判断、投げ受けの加点要素が 5 名全員で実施できているかどうか。
・Wave のカウントの可否の判断はどうか。

【団体 DA】
・連係の関わりについての確認。
・シリーズ、通過基準の見極め。
・連係が重なっていないか、4 秒を超えて手具なしの選手がいないか。
・投げの高さ距離の見極め。
・回転の重複。

【団体 A】
団体競技当日、映像研修にて採点上の打ち合わせを実施した。最後の映像は、事前資料とは別の映像だったため、ここでの見解が打ち合わせに大きな役割を果たした。映像は、世界でも上位層の芸術的な演

技であったが、ステップが CC との関係においてカウントできないものがあった。ステップは 1 つ 0.50 と芸術の評価において得点源になるため、上位層であってもルールに則っていなければ評価できないこと、またその逆もあることを打ち合わせた。さらに、芸術は減点方式による採点になるが、良い構成、芸術的パフォーマンスには臆することなく高い評価を与えることを確認することができた。

【団体 E】
・各減点項目の確認
・移動の見極め
・四肢の減点・身体難度の誤差を 5 人の完成度から見極めること
また映像研修を基に、移動の減点において何点になるか、実施審判内で共有し目線を合わせた。

○採点上起こった事項とその処理

【個人 DB　フープ・クラブ】
・DA を実施しながらのバランスの静止が不足している選手が多く、DB でカウントすることができなかった。
・コンバイン難度でのフェッテバランスの後のバランスの静止が不足していて、ノーカウントになることがあった。
・フープでのフェッテバランスの際、転がししか手具操作がなく、転がしに不足があり、ノーカウントにする選手がいた。
・ルールの定義に基づいて「頭から骨盤を通って足元まで連動しているか」を見極め判断し、W が 不足している場合には減点を入れた。正しく見える選手が多くいたと感じたが、DB である波動については最終の動きに不足が見られ、カウントできず減点を入れることになった。
・もぐりでの R において、受けてから回転に入ってしまう選手が多く、ノーカウントとした。

【個人 DB　ボール・リボン】
個人 DB は、身体難度、R の加点と全身の波動（W）が 2 つカウントできるかが重要な役割を果たしている。全身の波動（W）は全体的に認識できるようになったが、DA と組み合わせた時や音楽との関係なのか時間的問題により頭からつま先までの連動に欠けることがあった。全身の波動（W）は 1 つ 0.30 の減点が生じるため、見解の統一をはかり慎重にカウントの有無を判断した。また、コンバイン難度は、1 つ目と 2 つ目の接続が正しく実施されているか、そして 2 つ目の身体難度が明確に実施されたか悩む場面があった。そのため、身体難度の定義にあっているかを話し合いつつ、カウントの有無を決定した。
　多くの選手がコンバイン難度を実施していることは喜ばしいことだが、その選手に合ったコンバイン難度とは良い難いものが多かった。言い換えると多くの選手が同じコンバイン難度を実施していることに違和感を感じた。各選手の資質に合ったコンバイン難度が考案、実施されることを期待したい。

【個人 DA　フープ・クラブ】
（フープ）

・採点規則通りのベースと基準を満たせていない実施（DA として成立しないもの）があり、ノーカウントとした。
・基準の DB や Wave が不正確でノーカウントになる実施が多く見られた。特に、バランスの静止について、1 秒間の静止がない選手が多く、形が固定されていない場合はノーカウントとした。
・転がしでは、大きなバウンドやプレアクロバット回転をしながらの実施でタイミングが合わないものをノーカウントとした。
（クラブ）
・風車がベースの DA を行う場合、手が離れすぎて形が見えないものや回転が途切れてしまう実施があり、ノーカウントとした。
・基準で垂直軸回転を実施する際、回転不足と見られる実施や回転のタイミングが合っていないものはノーカウントとした。
・ベースが小さな 2 本の投げ受けの場合、360°の回転が不足している実施があり、カウントできない選手も見られた。
・基準で視野外を実施する場合に、採点規則に掲載されている視野外位置を満たせていないケースがあり、ノーカウントとした。投げの軌道やアクシデントにより不十分な実施となったのか、構成上のミスなのかを理解する必要があるように感じた。

【個人 DA　ボール・リボン】
（ボール）
・2 部位転がりきらずに終了したものはノーカウントにした
・片手受けは比較的正しい実施が多くあったと思うが、最初のアクションから両手となり手具操作の減点が入ることもあった
・八の字の実施が不明確に見えた場面があった
（リボン）
・螺旋・だけいが不明確でノーカウントになるケースが多かった
・股下の基準もスティックが脚の下に入っておらずノーカウントにすることがあった
・視野外位置（特に頭の後ろ）のかきは、肘が出てきてしまうものがありノーカウントにすることがあった
また両種目とも 360 度の回転不足や、DB の基準（特にバランスの静止）がなくなりノーカウントになるケースが多かった。

【個人 A】
・高い投げ／受けの減点について
減点する選手はいなかったと認識しているが、クラブ投げを 2 回～3 回同じ投げ方をしているケースはあったので、種目によって重複しやすい技を念頭に置くことでミスジャッジが防げる項目だと思った。
・ステップ
８秒間のダンスステップを明確に 2 つカウントできた選手は数名であった。
　明確にカウントできないものは下記の 2 点であった。

①DA による明らかな中断
②ダンスステップではないと感じる［walk／run の多用］
　判断に迷うケースとしては、下記の 2 点があった。
①8 秒間はあるが「曲と合致した」ステップなのか
②選手本人が表現しようとしているのか〔振付けをこなしている）
・ダイナミックチェンジ／エフェクト
審判としてはほとんどの選手に減点が入る項目ではあるが、「やろうとしている」選手の作品は、全体的にも構成上の工夫が随所に見られ、オーディエンスとして観覧したときに魅力のある作品として印象に残るだろうと思った。
・中堅層の選手が続く中、国際規格の選手をどう評価するかは各審判が気をつけて判断していたように感じた。

【個人 E】
バランスの「最低 1 秒間の形の保持がない」-0.3 の実施減点が多かった。胴の水平後屈や水平側方を伴うバランス難度は形が不正確なものが多くみられた。コンバイン難度のバランスの不正確さもあった。手具の基礎技術の減点も多く、フープとボールでは転がしが跳ねる・2 部位の転がしが短い、クラブでは不正確な風車の減点、リボンでは図形の乱れ・不正確な操作等、DA を入れた演技構成が実施では減点につながってしまうケースも多かった。今大会は落下ミスが多く、1.0 の減点場面も度々あった。

【団体 DB】
・身体難度では、5 名の選手の身体レベルに差があるチームも見られたので、特に開脚と後屈の誤差について正しく判断できるよう努めた。コンバイン難度では、やはり 2 つ目の難度の誤差や手具操作のタイミングが正確でない実施が多く、難度間の接続についても不正確なチームがいくつか見られた。また、ドゥヴァンフェッテローテーションについては、大きな誤差の見極めでやや判断に悩むケースもあったが、審判間で協議し採点を行なった。
・交換については、受けの「視野外」「手以外」がきちんと 5 名正確に実施できているかということに加えて、「くぐり抜け」を実施するチームの 2 部位の通過にも注視した。また、投げでは「軸回転」がきちんと実施できているかどうかの判断も正確に行うよう心掛けた。
・R では、進行方向が同一か否かで判断に悩むケースが見られた。さらに垂直軸回転の回転不足でカウントできないケースもあった。

【団体 DA】
・CC の際、定義である「連続して」実施できておらず、特に 2 番目 3 番目の動きが同じになってしまうケースがあり、ノーカウントとした。
・投げの高さ、距離については明確に行っているチームが多く、高さや距離が原因でノーカウントになるケースは少なかった。
・CR において 0.3 の通過を実施しているチームが多かったが、空中で受ける手具の位置が正しく実施されていないチームについては 0.1 の通過でカウントするケースがあった。

・CR でのプレアクロバットの回転不足はほぼなかったが、垂直軸の回転の際、投げの位置によっては回転不足になってしまうことがあり、ノーカウントにすることがあった。
・同時受けのタイミングが遅いチームがあった。

【団体 A】
高校生は長い期間フープ 5 を実施していることもあり、多くのチームが挑戦した演技であった。挑戦しつつも芸術をどのように見せるかはチームによって拘りを感じた。しかし、団体の芸術は、共同作業（同時、コントラスト、カノン、コーラル)、エフェクト 2 つ、ダイナミックチャンジ 3 つと実施しなくてはならない芸術要素が多く、これらが演技終了後の印象と反して、実施されていなかったチームもあった。特にエフェクトは、今一度、音楽と身体、手具の関係において工夫が必要であると感じた。このように芸術はその都度の減点と一括減点によって評価する必要があり、この狭間で評価が分かれる場面があった。その際、審判長から見解の統一をしていただき、本日の演技に対する評価ができていたかを改めて判断することができた。

【団体 E】
・全体的にミスの多い試合となり落下ミスによる減点や両手受け・抱え受けが多く見られた
・構成上の移動なのか、ミスによる移動なのか見極めるのに考える場面があった
・DB の誤差や四肢の減点についてはその都度入ることが多かった
・不完全な転がしや実施上起きるミス（特に肘の曲がり）に対する減点も入ることが多かったため、特有の基礎手具要素（転がし・軸回し）は確実に実施してほしいと感じた

○その他特記事項・意見・感想等
【個人 DB・団体 A　　浦谷郁子】
＜個人 DB（ボール、リボン）＞
1 日 4 種目の試合は、集中力、体力的に難しいものがある。そのためか、午前と午後では別人のように見える選手もいた。1 日 4 種目は過酷であるが、だからこそ各選手の課題も浮き彫りになったため、このような試合運びは高校生において重要な大会であると感じた。
DB の採点にあたり課題と感じた点は、選手に適した身体難度、R、W の選択、オリジナリティになる。4 種目とも身体難度の種類がほぼ変わらない、さらにどの選手をみても同じような難度を選択していることに課題を感じた。さらに、R においてもオリジナリティのある投げ方、受け方をする選手は少なかった。多くの選手が DB のシリーズを実施している点は良い傾向であったが、プレアクロバットにおけるシリーズは少なかった。そのため、DB においても、音楽を活かした難度要素の選択、オリジナリティの追求がおこなわれることを期待したい。そして、高校生がオリジナリティある難度を実施した時に公平かつ正しく採点ができるよう研鑽を続けていきたい。
＜団体 A＞
団体競技の日は、祝日、無制限の観客の中、実施されたため、観客と一体となった大会に立ち会えたことを嬉しく思っている。また、選抜大会は 1・2 年生のチームではあるが、今できる最大限の技に取り組んでいる姿に感銘を受けた。高校生の団体競技は、レベルが高く、勢いもあるため、各チームが拘

っているものが何かを瞬時に察知し、審判することの重要さを感じた。特に芸術は、各チーム異なる演技構成、パフォーマンスによって芸術を表出させている。芸術の表出が、どのような評価になるかをルールに則って実施することの難しさ、さらに楽しさもあった。難しく、楽しいは、相反するところがあるが、それだけ、高校生の団体が芸術的にも上がってきているのだと感じた。だからこそ、より精度の高い演技が、（四肢が美しく、投げ受けで移動をしないなど）実施できた時、より芸術の評価も高くなるだろう。各大会、各チームの出来栄えに応じた評価が正しくできるように、世界の動向にも注意をはらいつつ、採点研鑽に努めていきたい。

【個人 DB・団体 DA　　松本萌】
今大会に審判員として参加させていただきましたことに心より感謝申し上げます。 個人、団体ともにルールに沿って工夫された個性ある作品が多く、ステップだけでなく、全ての動きにおいて音楽に合わせた構成になっている選手、チームが多かったと感じました。また DB では高難度に挑戦したり、DA や R でもより高い加点になるよう工夫がみられました。しかしながらまだ完成までに至っていないと感じる作品もあり、夏のインターハイでは挑戦しているものを完成させながら作品のテーマを感じさせるものになることを期待しています。
最後になりましたが、開催県である埼玉県の先生方、全ての役員の皆様、高体連の皆様には準備か ら運営、片付けまで細やかなご配慮をいただきまして感謝申し上げます。そしてこのような大会に審判員として貴重な機会をいただけたことに深く感謝をし、これからも自己研鑽を積んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。

【個人 DA・団体 DB　　神野未来】
まず、今大会に審判員として参加させていただいたことに、心より感謝いたします。
　今回は D を中心に採点業務にあたりました。まだ新しい演技構成になり、間もない中での全国大会となった選手やチームも多かったと思いますが、たくさんの時間を新体操に費やし、大会に向けて調整してきたのだろう、という情熱が感じられました。どのチームもこれから夏の高校総体に向けて、さらに練習を積むことと思います。どうか、怪我なく新体操を楽しんでほしいと願います。
　最後になりましたが、開催県である埼玉県の先生方、全ての役員の皆さま、高体連の皆さまには、準備から大会運営等、細やかなご配慮をいただき深く感謝いたします。この貴重な経験を今後の審判活動に活かしてまいります。ありがとうございました。

【個人 DA・団体 E　　穴久保璃子】
今大会に審判員として参加させていただき、心より感謝申し上げます。
個人 DA では高い価値のベースを多く実施するための戦略や魅せ方を工夫する選手もいましたが、全員が同じような DA を実施するためオリジナリティに欠ける印象がありました。
団体は、メンバーを入れ替え新たな構成で挑んでくるチームも多くミスも多々見受けられましたが、どのチームも挑戦する内容だったのではないかと思います。その中で移動や四肢の美しさにまでこだわっているチームもありましたが、まだ技に追われ必死になってしまうチームが多かったことも事実なので、今後さらに練習を積み重ねて四肢の美しさなど細かい部分にまで意識を向けてほしいと感じまし

た。
　最後になりましたが、開催県の埼玉県実行委員の皆様、高体連専門部の皆様、開催にあたりご尽力いただきましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。
今後も今大会の経験を活かし研鑽してまいりたいと思います。
本当にありがとうございました。

【個人Ａ　　田中舞】
全国選抜といえどもレベルにばらつきがあり、インターハイも含めて採点競技の難しさと、トーナメント制でない競技の難しさ、選考基準の曖昧さなど、この大会を開催する意味は何なのだろうと思わざるを得ないが、審判としてできることは正しくジャッジをすることだけである。
「正しいジャッジ」とは何かという疑問は常に念頭にあるが、経験値から基づく判断材料が多いほど「正しさ」に近づくともいえ、またその逆に経験値が邪魔をして「正しさ」から遠のくともいえる。
芸術では今サイクルのルールが浸透したとはいえ、実行できているかは別のように思えた。「美しさ」「正しさ」を習得したうえでの芸術性の追求を高校生に求めるには、ジュニア期の基礎の蓄積の上でしか成り立たないからである。
団体 DB では、当方のミスジャッジで順位が変わってしまう責任の重さも感じた。正直なところ 5 人全員分の実施を正確に見る事ができていない自覚があるので、自身の今後の課題として今サイクル中に解消したい。

【個人Ｅ　　小嵜さゆり】
　上位選手、上位チームの演技はつなぎが上手に構成されスピードや大きさ表現力もあり素晴らしかったです。個人・団体共に全体を通して演技構成が良かったと感じました。音楽の選択・動きの選択・表現や振付が個性的なもの等、指導者、選手にルールの理解が深まっていることを実感しました。ダイナミックな演技構成もありましたが、リスクが大きい分、大きなミスにつながってしまった選手やチームがあり、残念でした。どのチームも夏の全国高校総体に向けてこれからさらに練習を重ねていくことでしょう。高校生たちの飛躍に期待しています。
　終わりになりましたが、大会開催にあたりご尽力いただきましたすべての方々に感謝致します。特に開催地埼玉県の役員・補助員の皆様には厳しい情勢のなかで、準備・運営・後処理までありがとうございます。また、全国高体連体操専門部の先生方、審判業務を支えて頂いた日本体操協会審判本部の皆様、ありがとうございました。

【副審判長　　佐藤なつみ】
ルール改正後 3 回目の高校選抜大会ということもあり、ルールが浸透し、個人・団体ともにテーマの見える演技が増えたように感じました。芸術の部分に加え、難度の個数が制限される中でできるだけ大きい価値点・加点を狙い、演技でのスピード感も求められることから、演技の難易度は年々上がっていると思います。そのためミスが出てしまうこともありましたが、日本での試合シーズンはこれからスタートしていくので、今後より磨かれた演技が見れることを楽しみに思います。
　採点上気づいた点では、個人でも団体でも同じような DB、DA、連係、投げ受けの技術を選択してい

ることが多いと感じました。選手・チームの個性が見え、演技にインパクトを与えるようなオリジナリティのある技が増え、今後さらに進化していくことも期待しております。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり埼玉県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、その他すべての関係者の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。この度は今大会に審判員として参加させていただき、本当にありがとうございました。

【審判長　　伊豆島知佳】

まずは、今大会審判長として参加させていただきましたことを心より感謝申し上げます。

高校生の大会の中でも最高峰に位置づけられる高校選抜大会で、審判長という役割を担うことは大変緊張感がありましたが、選手、チームに向き合い公平公正な採点を心掛けました。そして、審判員・関係者の皆様のお蔭でスムーズに終えることができました。

春の大会ということもありまだ熟練されていない演技もありましたが、上位の演技にはレベルの高い選手や作品もあり、難度以外のルールの理解度が上がったことを感じました。ただ点数を取るだけではなく、ただ美しく動くだけではない、新体操に求められているものは多くありますが、以前にはなかったＤ・Ａ・Ｅのバランスの良さがだんだんと演技に出てきたと思いました。

ただ、実施度の面では未熟さがありました。演技中の正確性を欠く実施ミスによるもの以外にも、やりきる力や魅せきる力というものが不足していると思います。今後、夏に向けて様々な実施力が上がっていくことを期待しています。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり埼玉県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、その他関係の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。そして、このような大会に審判員として貴重な機会をいただけたこと御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以上